

都市の雨水管理

米国のグリーンインフラに学ぶ

ランドスケープアーキテクト (ASLA) 小出 兼久

第 3 回

になったフロースルー
ランター、バイオレン
ションや低湿地として設
計された中央分離帯およ
びサークル、浸透性舗
装、街路樹などである。
ここで大切なのは植物と
土壌で、それらを都市の
インフラにどううまく落
とし込むかが問題とされ
る。

原動力

なぜグリーンストリー
トを推進するのか。米國
でグリーンストリートを作
らうとする原動力とな
ったのは、河川下流の水
質の保護や流域の健全性
の復元であった。また、
多くの歴史ある大都市で
問題となっていた合流式
下水道からのオーバーフ
ローも原因である。結
果、米國で、都市部にお
いても郊外においてもグ
リーンストリートの整備
が進んだ。

グリーンストリート
日本でもグリーンスト
リートを取り入れようと
する動きはある。しか
し、それを後押しするは
雨水戦略なのである。

グリーンストリート
日本でもグリーンスト
リートを取り入れようと
する動きはある。しか
し、それを後押しするは
雨水戦略なのである。



車道と歩道が一体となったグ
リーンストリートの例 (ポ
ートランド市) ©Jonathan Page

良好し、流
域の健全
性を向上
させる。
歩行者の
交通の安
全性も強
化し、炭
素排出量
を減ら
し、近隣
を美化す
べきところが、この基
礎でグリーンストリート
を評価した論文は未だ少
ないのが現状である。

(次回に続)

* * *

筆者：小出兼久 (こい
で・かねひさ) NPO法
人日本ゼリスケープデザ
イン研究協会 (JXCD
A) 代表理事

備考：記事詳細は JX
DA (<http://xandscape.jp.org>) の環境新聞 +
コラム資料参照

都市にグリーンストリートを普及させる (1)

米国では都市のランド
スケープの 4 分の 1 を道
路が占めている。それゆ
え道路は、低影響開発に
とって、普及と実践の鍵
を握る重要な場所であ
る。その公道用地で、緑
の技術を駆使して建設さ
れ、発展してきたのがグ

グリーンストリートと
は、水資源技術者や生態
学的技術者などの専門家
が、バイオレテンション
(生物滞留域)、透水性舗
装、浸透トレンチ、街路
植栽領域、歩道と一体

グリーンストリートと
は、水資源技術者や生態
学的技術者などの専門家
が、バイオレテンション
(生物滞留域)、透水性舗
装、浸透トレンチ、街路
植栽領域、歩道と一体